

めぐるの学校教育

子どもの成長や発達に連続しており、長期的な視野に立って人間関係や生活経験を広げていくなど小学校から中学校へと発達の段階を踏まえた学校間の円滑な連携が大切です。目黒区で実施しています小・中連携について、中学校区ごとにどのようなことが行われているか、第九中学校区での取り組みを紹介します。また、未来を担う子どもたちをどのような視点で育てているのか、区立小中学校の授業や取り組みについて、その一部を紹介します。

☎ 教育政策課 ☎ 5722-9432

小・中連携

第九中学校区は、『確かな学力の育成』をめざして第九中学校と向原小学校・原町小学校が連携をしています。国語科、社会科、算数・数学科、理科、音楽科、図画工作・美術・技術・家庭科、保健体育科、英語活動・英語科の各教科の研究部会に3校の先生方が属するように教科部会を設定し、小中学校の9年間のカリキュラムの連続・各教科の指導計画・指導内容・指導方法の研究をしています。各教員が、アイデアを出し児童・生徒によりわかる授業にしていこうとより学力向上をめざします。



理科部会

◇理科部会

理科部会では、実験や観察を通して、事物に対する探究心や考え方を養うため、「学習目標を理解する→仮説を立てる→解決方法を理解する→実験・観察をする→結果を整理する→考察をし、規則性を見つける」という学習の流れを重視した授業を行っています。

◇算数・数学科部会

算数・数学科部会は、自力解決のできる児童・生徒を育てるため、毎授業ごとに課題解決に向けて個で考えをもつ、次にグループ活動の時間に互いに考え方を論理的に表現し合い、高め合っていくという学習過程を重視し、考える楽しさを味わわせる授業を重ねています。その結果、児童・生徒は自分の考えに自信をもつことができるようになってきました。

◇社会科部会

社会科部会は、多面的・多角的に社会事象が考えられる児童・生徒の育成を目指しています。授業には、個で資料から読み取ったことを基に考え、互いに考えを交流してものの見方や考え方を深めたり広げたりできる場を設定しています。教員が、指導法の工夫を重ねた結果、資料を読み取り考えたことを自分の言葉でまとめ伝える力がはぐくまれてきています。

◇国語部会

国語部会は、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現できる児童・生徒を育てることを目指しています。文章を読む能力を身につけることに視点をあてました。説明文の読み取りの授業では、事実と意見を読み分けられる指導の工夫をし、物語文の読み取りの授業では、場面や登場人物の心情を読み取る指導の工夫をしています。様々な教員の指導法の工夫により児童・生徒には、読む能力が身につく、読書をしようとする態度が育っています。

◇英語活動・英語科部会

英語活動・英語科部会は、児童・生徒に不安や苦手意識をもたせず、コミュニケーション能力の基礎を養うことを目指しています。そこで、小学校の時から英語の文字にも親しめるように、ピクチャーカードに英語を記載したり、ワークシートで振り返りをしたりするなどの活動も入れていき、中学の学習の前段階として学べるように工夫をしました。スムーズに中学校の英語につながり、入学時から、積極的に英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりしています。

『確かな学力の育成』めざし、連携を強化していることは、接続期の小学校6年生児童が、安心して中学校へ入学できることにつながってきています。また、今回の研究を通して深まった教員相互理解が、継続され さらに成果があがるよう期待しているところです。第九中学校区は、平成27年1月29日に研究の成果を発表します。



算数・数学科部会



社会科部会

学校の授業や取り組み

保護者が、選びたくなる教育課程 区立八雲小学校

八雲小学校では、教育課程に人間関係づくりを位置づけています。その一つは、年間通したたてわり班活動(どの班にも1年生から6年生がいます)朝の時間に、たてわり班でも遊びや学校周辺の地域清掃をしています。集会では、たてわり班での対抗戦や競争をしています。秋に行われます八雲フェスティバル(子ども祭り)では、たてわり班でゲーム屋の店を出します。学年に応じた役割ができ、協力をする大切さを学びます。6年生の卒業前には、1~5年生が感謝の気持ちを込めて、「ありがとうパーティー給食」を開いています。



このように一年間たてわり班活動を重ねていくことにより、高学年においては、低学年の喜び姿を見ることで、人の役にたてたという喜びになり、低学年には、感謝の気持ちが芽生えます。このことが、心を温かくします。保護者は、上級生に憧れをもつ伝統、和やかな人間関係、不登校0人という八雲小学校を応援しています。

一人ひとりが輝く学校 区立上目黒小学校



上目黒小学校では、考える力を育てることに重点をおいた教育課程を編成しています。「算数の指導法」を教員の研究テーマにし子どもが興味・関心を深める授業を推進しています。

算数の学習は、3年生以上の学年では、1学年を3つに分け、習熟度別学習を行っています。3つのクラスは、児童の習熟の状況に応じたきめ細やかな学習が進められ一人ひとりにわかる学習を実施しています。

「少数精鋭」一人ひとりの子どもに目が行き届き、教員から子どもへ認める声かけができます。子どもたちは、褒められ、自信に満ちています。1時間の授業に子どもたちの活躍の場も保障されています。

子どもたちが、自分の考えをノートに書いたり、みんなの前で説明したりすることによって、考える力が伸びてきています。教員は、「数学的に考える力を伸ばす指導と評価」の研究を行い、より子どもにわかる授業をしようと努力を重ねています。

「言語活動の充実」・「基礎・基本の定着」 区立第一中学校

第一中学校では、「言語の活動の充実」、「基礎・基本の定着」に教育課程の重点においています。

教科教室に配置されているICT機器を活用した授業を実施し、生徒が、1人1台のタブレットPCを活かし自ら興味・関心をもって学習に取り組めるよう工夫を重ねています。

各教員は、自分の授業を日々工夫し生徒にわかりやすい授業ができるように教材研究をしています。生徒1人1台のタブレットPCや電子黒板等の最新ICT環境を活用した授業を進めたことにより、生徒は、個に応じた速さで進めることのできるタブレットPCの授業に興味・関心もち学習をしています。

こうした授業の積み重ねにより、21世紀の教育環境の中で第一中学校の卒業生が主体的に生きていくよう願っています。

